

1. 流域のすがた

(1) 構成

淀川水系は、三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良の2府4県にまたがり、幹川流路延長距離は75.1kmに及ぶ。また、その流域面積は8,240km²と広く、平成19年10月1日現在その中に約1,198万人の人々が生活している。

その流域は、本川上流の琵琶湖・宇治川、西からの支川である桂川、東からの支川である木津川、下流の淀川本川および猪名川の5流域から構成される。

淀川水系全体の流域面積に占める割合は、琵琶湖が最大で46.7%、次いで木津川の19.4%、桂川の13.3%、淀川下流の9.8%、宇治川6.1%、猪名川4.7%となっている。

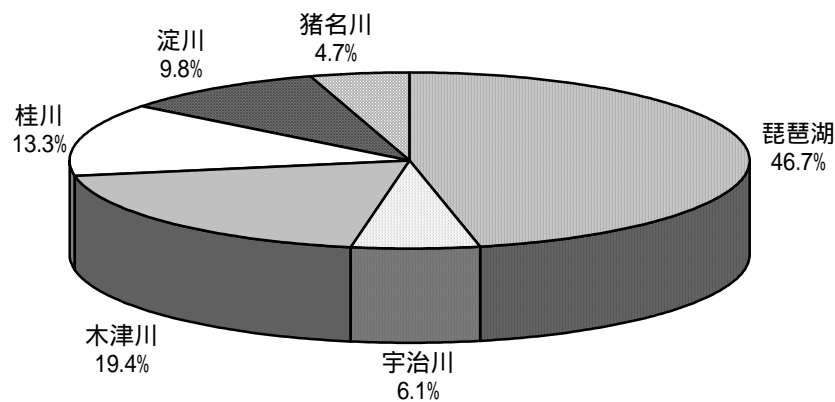
琵琶湖には外縁の山地から姉川、野洲川など121の一級河川が流入している。琵琶湖に集まった水は、唯一の自然流出河川である瀬田川を通して南下し、京都府宇治市からは宇治川と名を変えて京都盆地を貫流する。その後、東から左支川の木津川、西から右支川の桂川が合流し、淀川本川となって大阪平野を流れる。

猪名川は、北摂山地大野山を源とし、大阪、京都、兵庫の2府1県にまたがって流下し、下流で淀川から分かれた神崎川を通じて大阪湾に流入する。従って、琵琶湖および淀川本川の流水とは直接的な関係はない。

【表1 - 1 琵琶湖・淀川の流域面積】

単位:km ²	
河川名	流域面積
琵琶湖	3,848
宇治川	506
木津川	1,596
桂川	1,100
淀川	807
猪名川	383
淀川水系	8,240

琵琶湖総合開発協議会「琵琶湖総合開発事業25年のあゆみ」より作成



【図1 - 1 流域面積の構成比】

琵琶湖総合開発協議会「琵琶湖総合開発事業25年のあゆみ」より作成



【図1 - 2 琵琶湖・淀川流域図】